

## 厚生労働省によるヒアリングを 終えて

実務委員会 委員長 木村 泰三



21年度社会保険診療報酬改定に向けての外保連の要望に対する厚生労働省のヒアリングが、7月15日、16日、17日、8月26日、27日、28日、31日に行われた。学会側からは、外保連加盟83学会中62学会が出席した(注;要望書提出時83学会、その後、新規加盟承認につき現在87学会)。1学会に与えられた時間は25分、出席人員は5名、説明項目も2つに限られたなかでのヒアリングであった。厚生労働省保険局医療課の側からは、宇都宮企画官以下担当課長補佐4~5名が出席され、熱心に我々の主張を聞いていただけた。

私が直接出席したのは、外保連に対するヒアリングと、日本外科学会と日本臨床外科学会(合同)に対するヒアリング(8月27日)であった。外保連からは、1)科学的根拠に基づいた技術評価、2)外保連試案に沿った評価、3)技術料と材料費を明確に分離評価、の3項目の要望をだし、山口会長と岩中会長補佐が主に説明を行った。これらの項目は従来からの外保連の主張であるが、3)については決められた材料以外については分離評価困難との回答で、手術料に上乗せで対応したいとの意向であった。しかし、現状の根拠のない診療報酬点数に対するわれわれの不満と憤りの気持ちは、十分に伝わったと思う。

## 目次

厚生労働省によるヒアリングを終えて  
~ 実務委員会 委員長 木村 泰三

特集 日本の医療技術は優れている!! PART  
「超微小外科手技を用いた手の再建」

編集後記 ~ 広報委員長 松下 隆

三保連ニュース

事務局からのお知らせ

日本外科学会と日本臨床外科学会は合同で、1)超音波凝固切開装置等の適用拡大、2)肝胆膵疾患手術の際の特殊縫合糸などの算定、3)経皮経頸部食道胃管挿入術、の3項目を要望した。1)については呉屋先生(開胸手術への適応拡大)と木村(開腹手術への適応拡大)が、2)については万代先生が、3)については大石先生が説明を行った。1)については、手術時間の短縮、合併症(リンパ漏など)の減少、入院日数の短縮などの利点を、資料を出して説明した。厚生労働省側の反応は概して良かったので、改定有望と思いたい。2)については前回の改定の手術料で折込ずみとの厚生労働省側からの発言があったが、術式に制限があり不十分との反論を行った。3)については医療材料が未認可なことが問題とされた。

全体の印象としては、厚生労働省が外保連の要望を重視し、ヒアリングを真剣に行ってくれたと感じている。政権交代もあり、病院崩壊を防ぐための診療報酬大幅アップの機運は高まっている。来年の改定に期待したい。

特集 日本の医療技術は優れている!! PART

「超微小外科手技を用いた手の再建」

日本手の外科学会

東京大学医学部形成外科 光嶋 勲

最近の形成再建外科のトピックスとして、失われた手指、手、前腕、上腕の形態再建のみならず、すでに失われた神経筋の機能的な再建も進歩している。その背景としては、0.5mm前後の超微小血管吻合が可能となったことがある。この超微小血管吻合技術(スーパーマイクロサージャリー)は本邦が世界への発信基地であり、血管柄付き筋移植、血管柄付き骨移植などの大型組織移植のみならず、0.5mmの血管を吻合する指尖再接着、遊離穿通枝皮弁、血管柄をつけた足爪、趾尖、神経、関節、骨膜、脂肪、部分耳介、虫垂などの血行を持つ小組織移植術も開発され続けている。筆者らは、この新しい手術手技を世界に広めるために1997年から国際講習会を行なっている。過去13年間、欧米を中心として毎年live surgeryを行ない、3000名以上の再建外科医が参加し、海外でも急速に広まりつつある。

指尖再接着

挫滅や引きぬきを伴った末節レベルの指の再接着でも、細静脈(0.5mm径)移植を用いることで高率に生着する。指神経ブロックで再接着が可能となっている(図1)<sup>1)</sup>。



図1 66歳男。左小指末節の引き切断例。静脈移植を用いた再接着がなされた。右：術後6ヶ月。

指尖欠損

”爪を含めた指尖の再建”が可能となった。失われた爪や指は、神経血管を茎とする部分足趾(爪)移植により知覚と形態を再建できる(図2)<sup>2, 3)</sup>。



図2 A  
41歳女。右母指指尖欠損例。つまみで疼痛あり。右母趾尖を移植して母指先端を再建。



図2 B  
左：術前。右：術後1年。

母指再建

母指の再建は約120年前にオーストリアの外科医 Nicoladini が有茎の第2趾移植を行なった。その後1960年代に血管吻合を用いた遊離足趾移植が可能となり、機能と整容面を重視した再建術の改良がなされ続けている(図3)。

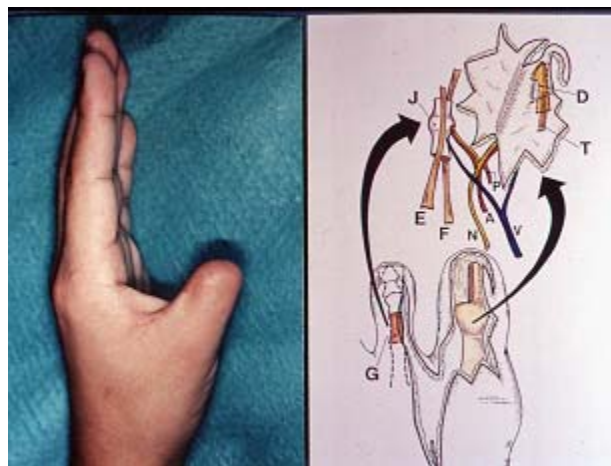


図3 A 21歳男。指節間関節機能を有する母指再建法。左母指末節欠損例でIP関節が欠損している。握ったものが抜けやすい。右：再建法。左母趾から末節・爪・皮弁を採取。第2趾から血管をつけて関節・腱を採取。これらを組み合わせて関節を含む母指を再建。



図3 B  
術後6年。関節の可動性を認める。

### リンパ浮腫

乳癌切除後の上肢のリンパ浮腫とか子宮癌切除後の下肢のリンパ浮腫に対してはリンパ管細静脈吻合術が有効である。局所麻酔下に顕微鏡を用いて、直径0.5mmのリンパ管と同サイズの真皮直下の細静脈を探し、0.05mmの針を用いて端々（端側）吻合を行う。リンパ管の還流機能が残っている例では改善が得られ、蜂窩織炎を繰り返す例では、その回数が減少することが多い（図4）<sup>4)</sup>。最近では、予防的吻合術や、重症例に対しての遊離血管付きリンパ管移植を行いつつある。これは正常な吸収能力を持つリンパ管を患肢に移植し、リンパ液を静脈に誘導する方法である。

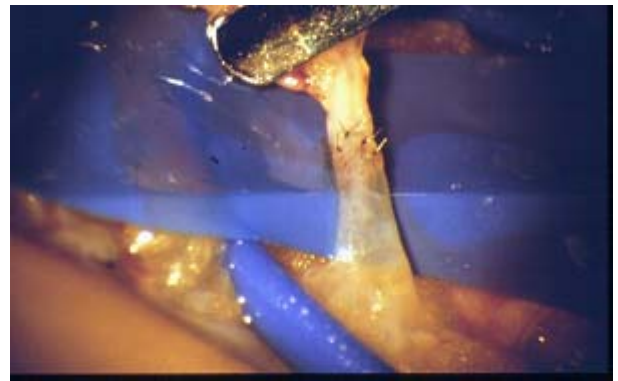


図4 A リンパ管細静脈吻合術。直径0.5mmのリンパ管と同サイズの静脈を0.05mmの針を用いて顕微鏡下に吻合する。



図4 B 64歳女。放射線照射を受けた左上肢リンパ浮腫例。11年間続いている。左：術前。前腕で2吻合がなされた。右：術後8年。術後の圧迫療法は不要となった。

- 1) Koshima, I., et al. Plast. Reconstr. Surg., 89: 710, 1992.
- 2) Foucher, G., et al. Plast Reconstr surg., 65: 616, 1980.
- 3) Koshima, I., et al. Plast. Reconstr. Surg., 92: 1331, 1993.
- 4) Koshima, I., et al. Plast. Reconstr. Surg., 97:397-405, 1996.

## 編集後記

広報委員会 委員長 松下 隆



外保連ニュース12号をお届けします。今回のトップニュースは、木村泰三実務委員長による21年度社会保険診療報酬改定に向けての厚生労働省によるヒアリングについてです。木村委員長が書いておられるように来年の改定に期待したいと思います。広報委員会では、日本の医療技術が優れていることをアピールするためのシンポジウムを企画中です。次回のニュースではもう少し詳しくご案内できると思います。

## 三保連ニュース

9月4日に癌研究会有明病院吉田記念講堂に於いて、第5回三保連合同のシンポジウムが開催され、今回は『医療崩壊から医療再生に向けて - 三保連のAction Plan -』と題し、特別講演として出月康夫外保連名誉会長をはじめ、各パネリストの先生方にご講演いただきました。当日の内容を動画配信しておりますので、詳しくは外保連のホームページ (<http://www.gaihoren.jp/>) をご覧ください。

## 事務局からのお知らせ

### 社会保険診療報酬に関する改正要望書

平成21年6月に「社会保険診療報酬に関する改正要望書（概要版）」を作成いたしました。

小冊子（概要版のみを収載）CD-ROM版（概要版、詳細版を収載）をご希望の方は事務局までE-MAILまたはFAXにてお申し込みください。

改正要望書・・・それぞれの領域の専門家と各委員会の努力によって、新しい医療の有効性や安全性をエビデンスに基づいて記載したものです。厚生労働省等が行う診療報酬改定に有用な資料であると考えます。

### 外保連試案追補版

平成21年8月に「手術・処置・生体検査報酬に関する外保連試案（手術・処置・検査料改定の参考資料として）〔手術第7版・処置第4版、生体検査第4版追補版〕」を作成いたしました。ご希望の方は事務局までE-MAILまたはFAXにてお申し込みください。